

令和6年度群馬県DX人材リスキリング推進事業 取組事例集



1 システムセイコー株式会社（製造業、従業員数110名）

～社長自らが選抜した各部門のコア人材をDX推進者に育成。事業成長の大きな武器に～

2 東亜工業株式会社（製造業 従業員数1,225名）

～新規事業の拡大に向け、新たな知見で商品の販売強化・付加価値向上のアイデアを具体化～

3 株式会社ケイエムオー（サービス業 従業員数14名）

～少人数、オーダーメイド製品の製造現場でDXによる業務効率化を推進～

4 株式会社国定電機（建設業、従業員数44名）

～働き方改革を目指し、社内スケジュールの「見える化」から業務効率化に取り組む～

5 株式会社協和（建設業、従業員数66名）

～工場間の受注・在庫管理・図面管理のデジタル化など、会社全体でDXに取り組む～

1 システムセイコー株式会社（製造業、従業員数110名）

～社長自らが選抜した各部門のコア人材をDX推進者に育成。事業成長の大きな武器に～

システムセイコー株式会社

半導体製造自動化装置・各種検査装置・精密部品・精密金型・各種治工具の設計・製作、装置制御などの製造・販売を行う。

創業以来、効率の高い自動化装置や超高精度な機械部品の生産に注力、「群馬県中小企業モデル工場」の指定を受ける。

【同社のリスキリング推進のポイント】

- 経営者の明確な目標設定、積極的な関与により、社員のリスキリングを推進
- 部署ごとの課題設定、中核人材をリスキリングにより、DX推進者に育成
- 課題解決に向け、社員同士で学習内容を共有、業務での実践を強く意識

経営者の明確な目標設定、積極的な関与により、社員のリスキリングを推進

- 年度目標に生産性向上20%を掲げ、目に見える成果や実務における効果を明確にするために、社員のリスキリングを推進。
- リスキリングに取り組むメンバーは社長自らで選抜。営業・設計・製造などの各部門からDXに関する知識を持った人材を育成し、自社独自によるシステム構築の実現を期待

部署ごとの課題設定、中核人材をリスキリングによりDX推進者に育成

- 総務ではデータ活用・分析、製造現場では図面管理の効率化、設計・組立ではロボットやAIといった先端技術の活用スキルの向上、営業では見積もり作成業務の効率化と学習開始前から各部署で明確な課題意識を持ち、リスキリングを推進
- リスキリングに取り組むメンバーは社長自らで選抜。営業・設計・製造などの各部門からDXに関する知識を持った人材を育成することで、自社独自によるシステム構築の実現を期待



写真：左から、渡辺さん、飯塚さん、廣岡さん、細野社長、西村さん、黒澤さん

課題解決に向け、社員同士で学習内容を共有、業務での実践を強く意識

- 問題解決と情報共有のため、社長を含めたWeb会議を開催
- 身につけた知識を、今後は具体的に業務へ活かす
＜主な取組例＞
 - ✓ 業務管理システム内で管理している仕入れと経理業務の改善に向け、業務フロー図を作成し、ベンダーとの意見交換に活用。
 - ✓ 手入力作業のシステム間での連携、自動化、精度向上を図るためにRPA（ロボットによる業務自動化：ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入を進める。

『システムセイコー株式会社』のインタビュー記事はこちら⇒
同社細野社長、渡辺さん、飯塚さん、西村さん、黒澤さん、廣岡さんにお話を伺いました。



2 東亜工業株式会社（製造業、従業員数1,125名）

～新規事業の拡大に向け、新たな知見で商品の販売強化・付加価値向上のアイデアを具体化～



群馬県DX人材リスクリング推進事業

東亜工業株式会社

国内外に11カ所の製造拠点をもち、住宅用部材と自動車部品の製造、『リベラキャビン』の製造販売を手がける。社内教育の充実をはかるため『TOAスクール』を開設し、従業員研修を自社内で実施する。

【同社のリスクリング推進のポイント】

- ユーザー視点に立った課題解決手法(デザイン思考)を実践し、課題である新製品「リベラキャビン」の販売強化、商品の付加価値向上を図るアイデアを具体化
- 製品開発サイクルの短縮化につながる新たな開発手法を習得
- 学習の進捗状況を受講者間で共有。事前に学習時間をスケジュールリングすることで、業務時間中に学習時間を確保



写真:『リベラキャビン』
立て済み・運んで置くだけのユニットハウス。アウトドアスタイル(小屋タイプ)とチャットスタイル(半屋外タイプ)がある。(パーツを選んで自由にカスタマイズできる)

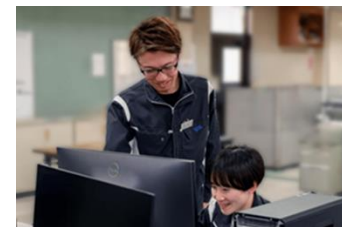


写真:東亜工業株式会社 齋藤さん

💡 ユーザー視点に立った課題解決手法(デザイン思考)を実践し、新商品「リベラキャビン」の販売強化、商品の付加価値向上を図るアイデアを具体化

- 新製品「リベラキャビン」の新たな顧客ニーズの創造・販売強化、新製品開発につなげるため、ユーザー視点に立った課題解決手法を習得。
- 新たな考え方や手法を業務で実践し、商品サイトの改善など、新商品の販売強化をアイデアを具体化。

💡 製品開発サイクルの短縮化につながる新たな開発手法を習得

- アジャイル開発(仮説検証を繰り返しながら、少しずつ改善を図る開発)の手法を学ぶことで、最低限のプロトタイプ(試作品)を作り、PDCAを速く回し続ける方が、無駄の削減、製品開発サイクルの短縮化につながるなど、自分自身の物事の捉え方・考え方に大きな変化を実感。

💡 学習の進捗状況を受講者間で共有。事前に学習時間をスケジュールリングすることで、業務時間中に学習時間を確保

- 商品開発・購買・生産技術などの各部門の若手職員を中心にリスクリングチームを編成、将来のキーパーソンとして育成。
- メンバー同士で学習内容や学習状況の進捗確認、各人の課題や考え方を共有することで、メンバーの成長を促す。
- 業務時間内にまとまった学習時間を確保するため、事前のスケジュールリングを工夫。

『東亜工業株式会社』のインタビュー記事はこちら⇒
同社住宅事業部 商品開発部副部長 齋藤さんにお話を伺いました。



3 株式会社ケイエムオー (サービス業(特殊車両の製造・メンテナンス)、従業員数14名)

～少人数、オーダーメイド製品の製造現場でDXによる業務効率化を推進～



群馬県DX人材リスクリング推進事業

株式会社ケイエムオー

1986年創業。レントゲン車や車いす移動車、消防車など、特殊車両のオーダーメイド製作とメンテナンスを手がける。全国でも数少ない特殊車両製作を手がける企業として、北海道から九州まで幅広い地域で車両販売を展開。

【同社のリスクリング推進のポイント】

- 社長自らも従業員と共に学ぶことで、社内DX化が加速。
- 採用活用でSNSの利用を開始。問合せ件数が増加。
- ロボット・ソフトウェア導入でなく、業務の見直し・実践を積み重ねて大きな成果へ。



写真:左から、兼松さん、神尾社長、岡部さん

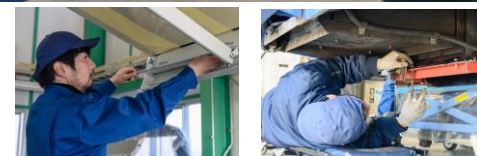


写真:職場の様子

💡社長自らも従業員と共に学ぶことで、社内DX化が加速

- 少人数、特殊車両のオーダーメイドの製作現場で業務の見える化・標準化を進め、従業員の負担軽減を図るため、社長自ら従業員と共にリスクリングに取り組む
- 社長を筆頭にデジタルへの抵抗感がなくなり、デジタルへの考え方が大きく変化。YouTubeの活用や管理システムの導入など、社長自ら業務で活用できそうなデジタルツールを積極的に情報収集し、導入に関する意思決定も迅速に
- 作業時間数や過去の施工記録をデータで記録・整理することで、工数管理を容易に

💡採用活用でSNSの利用開始。問合せ件数が増加。

- 新規顧客の獲得方法を学ぶ中でのSNSの活用をヒントに、人材確保のために採用活動でYouTubeやInstagramの運用を開始
- 企業サイトに加え、SNSによる情報発信チャンネルが増えたことで、問合せ件数が増加

💡ロボット・ソフトウェア導入ではなく、業務の見直し・実践を積み重ねて大きな成果へ

- DXについて学び、業務フローの見直しを進めることで、デジタル化できる業務とできない業務の区別が明確になった。
- 学んだことを活かし、各工程にどのくらいコストが発生し、全工程でどのくらいの売上げになるかといった「売上予測プログラム」を作成。工程を「見える化」することで、作業効率の改善に着手
- DXを難しく捉えず、安全衛生と同列に意識づけ、地道な業務改善を目指す。

『株式会社ケイエムオー』のインタビュー記事はこちら⇒
同社神尾社長、兼松さん、岡部さんにお話を伺いました。



4 株式会社国定電機 (建設業、従業員数44名)

～働き方改革を目指し、社内スケジュールの「見える化」から業務効率化に取り組む～

株式会社国定電機

再生可能エネルギーや電気設備をメインに、土木や省エネ事業の設計・施工・メンテナンスを取り扱っている。電気工事だけでなく、建設までワンストップで行えるのが同社の強み。取引先は全国各地となるが、近年は特に近隣地域への営業活動に注力している。

【同社のリスクリング推進のポイント】

- ▶ チャットツールの導入から始め長年の課題だった長時間労働の解消に向けて、デジタル技術を活用した業務効率化を実現するため、リスクリングに取り組む。
- ▶ チャットツールの導入から始め、社内の情報共有が進むことで、調整・管理の時間が削減され、間接業務の一部を省力化・効率化。
- ▶ 現場作業・代理人、営業、事務の各部署の情報データを一元化管理するシステムを構築・運用することで、各部署の業務効率化を実現し、更なる働き方改革を推進。

💡 長年の課題だった長時間労働の解消に向けて、デジタル技術を活用した業務効率化を実現するため、リスクリングに取り組む。

- 残業の主な原因である現場での手書き書類や個別管理されたデータをもとに行う書類作成を無くすため、社内業務のデータの一元管理が課題
- 過去にも業務管理アプリを導入するも浸透せず、新たな解決手法を模索するため、リスクリングに取り組む

💡 チャットツールの導入から始め、社内の情報共有が進むことで、調整・管理の時間が削減され、間接業務の一部を省力化・効率化。

- ビジネスチャットツール導入により、社員のスケジュールや社用車利用状況の「見える化」が進む
- 車両管理や勤怠管理のスムーズ化により、社内の調整が円滑になる
- 小さな成功体験をきっかけに、業務効率化への積極的な姿勢が生まれる



写真: 左から管理者の渡辺さん、受講者の岩崎さん、金子さん



💡 現場作業・代理人、営業、事務の各部署の情報データを一元化管理するシステムを構築・運用することで、各部署の業務効率化を実現し、更なる働き方改革を推進。

- 今後の目標として、アプリで現場から作業データを送信し、事務部門の原価管理ソフトと自動連携するシステムや請求書の入力から支払いまで一貫処理できるシステムの導入し、各部署の更なる業務効率化の実現へ
- 社員教育への投資は5年後10年後に大きな変化を生む重要な投資だと捉え、社外研修や展示会へ積極的に参加することで新しいアイデアを創出し、社員全体で会社の変革に取り組む

『株式会社国定電機』のインタビュー記事はこちら⇒
同社渡辺さん、金子さんにお話を伺いました。



5 株式会社協和（建設業、従業員数66名）

～工場間の受注・在庫管理・図面管理のデジタル化など、会社全体でDXに取り組む～



群馬県DX人材リスクリング推進事業

株式会社協和

精密板金・一般板金加工を軸にプレス加工、各種溶接加工、組付け等、幅広い分野での製造を行う。試作から多品種少量また量産、単品から筐体まで一貫した生産を行う。大型太陽光発電用パワコンフレーム、配電盤、通信機器の周辺機器、工場用設備、医療機器等でさまざまな産業に携わる

【同社のリスクリング推進のポイント】

- 導入した生産管理システムを最大限に活用し、生産性を上げるため、図面データの整理・活用方法等のデジタル化を目的に、リスクリングに取り組む。
- 新たな知識やスキルへの習得意欲のある社員を中心にメンバーを選出、中核人材として育成し、全社的な取り組み拡大の先駆けに。
- デジタルに苦手意識を感じる社員も、実際に使用して便利さを実感してもらうことにより、会社全体でDXを推進。



写真：細谷さん(左上)、羽廣さん(右上)、同僚のみなさん

導入した生産管理システムを最大限に活用し、生産性を上げるため、図面データの整理・活用方法等のデジタル化を目的に、リスクリングに取り組む。

- 大手企業と中小企業の間では、DXの取り組みに大きな差があることに強い危機感
- 生産管理システムを導入したが、業務の進捗管理や在庫管理といった機能を使いこなせていないところに課題。工場間の連携強化、生産性向上を図るには更なるデジタル技術の活用が不可欠
- 社内に点在する様々なデータを整理し、生産管理システムを最大限活用したい

新たな知識やスキルへの習得意欲のある社員を中心にメンバーを選出、中核人材として育成し、全社的な取り組み拡大の先駆けに

- 新たな知識やスキルへの習得意欲のある人をDX推進中核人材として受講者に選出
- リスクリングに集中できるワークスペースを用意

デジタルに苦手意識を感じる社員も、実際に使用して便利さを実感してもらうことにより、会社全体でDXを推進。

- 製造現場では図面データと作業指示書の連携を図るため、図面管理ソフトの導入、総務・経理では、発注業務や振込業務などにRPA(ロボットによる業務自動化:ロボティック・プロセス・オートメーション)を活用し、作業の一部を自動化するなど、社内の様々な業務の中で、リスクリングで学び得た多くのアイデアをもとに、改善を実践。
- 社員にデジタル技術を理解してもらうには、実際に使用してもらうことが近道と考え、製造現場では、材料管理アプリを導入することで、実際に作業効率の向上を感じてもらっている。他の作業においても、実際にデジタル技術に触れ、便利だと感じることで、現場からデジタル技術の導入について理解を得ながら、全社的にDXを推進。

『株式会社協和』のインタビュー記事はこちら⇒
同社細谷さん、羽廣さんにお話を伺いました。



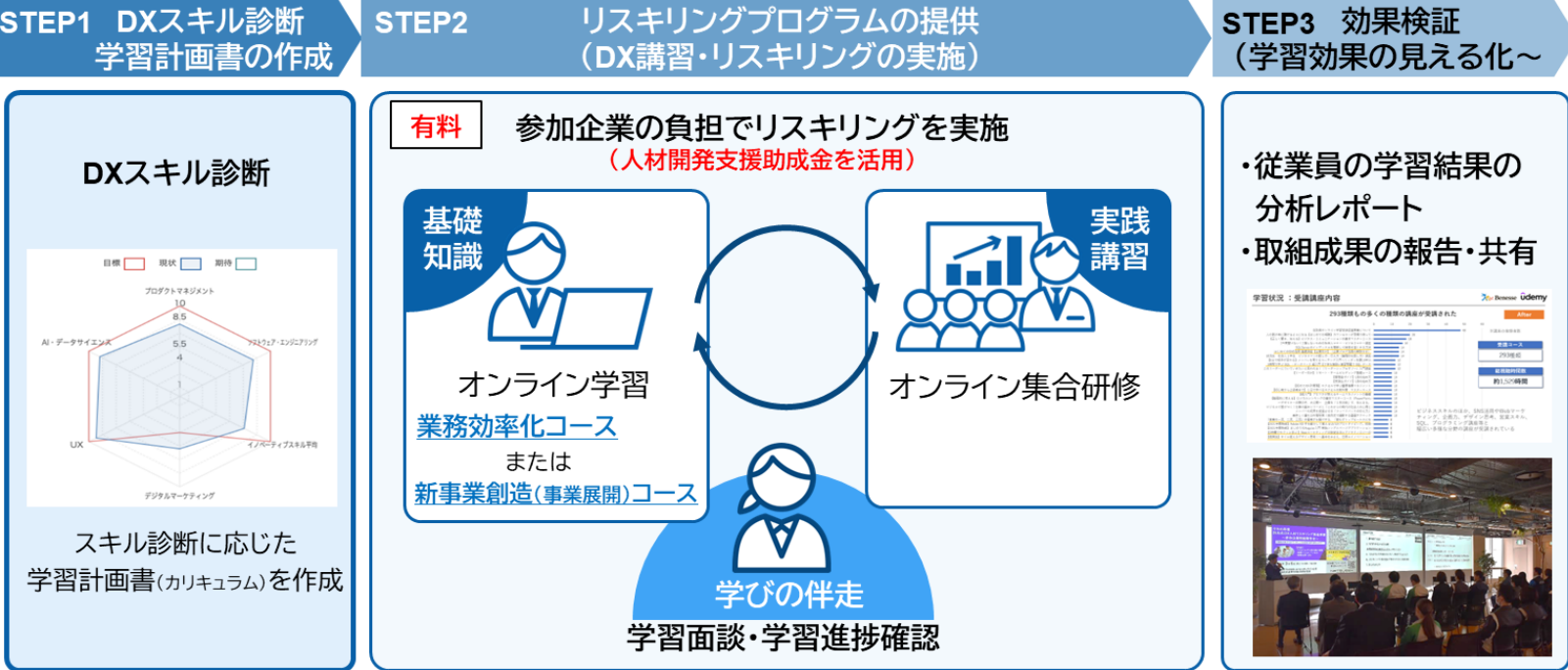
産業構造の変革を好機と捉え、企業が更なる成長を遂げるためにも、企業はデジタル・トランスフォーメーション(DX)への対応、労働生産性の向上、新たな事業分野への挑戦が必要です。

群馬県では、企業の成長、新たな挑戦への原動力となるDX人材の育成と確保を支援するため、企業主体のリスクリング(※)を推進する「群馬県DX人材リスクリング推進事業」を実施しました。

本事業では、企業主体のリスクリングの好事例を創出・発信し、県内に企業主体のリスクリングの定着・拡大を図ることを目的に、従業員のリスクリングに取組意欲のある企業を募り、参加企業に対し、①今後従業員に必要となるスキルの明確化、②参加企業に合わせたリスクリングプログラムの提案・提供、③国助成金の活用促進、④リスクリングの効果検証・取組内容の共有等の支援を実施しました。

※ 企業主体のリスクリングとは
DXへの対応、新たな事業分野への挑戦など、企業が成長し続けるために、企業が実施責任を持ち、従業員に対して今後必要となる新しい知識やスキルを学ばせること

◆本事業の流れ



リスクリングプログラムの概要（オンライン動画研修）

○オンライン動画研修は、参加企業が業務効率化コースと新事業創造コースの2つのテーマの中から選択し、学習を実施

業務効率化コース デジタルを活用した業務の効率化や生産性向上の方法を学ぶコース

	目指す姿	学習項目例
1	自身の組織において優先的に着手すべき領域が理解できている	5Sの考え方、プロセス可視化
2	業務効率化に大事なマインドセットが身についている	時間管理
3	業務効率化をサポートするツールを使いこなす	エクセル、VBA、Power Automate、GAS、RPA など（自由選択）

新事業創造コース デジタルを活用した新規事業開発を推進する力を身につけるコース

	目指す姿	学習項目例
1	事業アイデアの発想方法が身につく	情報インプット方法、要件のまとめ方
2	DX施策立案の方法について理解できている	ビジネスモデル設計
3	差別化・マネタイズの方法を理解できている	SWOT分析、マネタイズモデルの例

○オンライン集合研修は、前半テーマに「デザイン思考」、後半テーマ「DXプロジェクト」の内容で全6回(各回110分)の講義を実施

※オンライン動画講座の一例



手を動かして学ぶ業務プロセス改革！
業務の可視化、課題発見、施策立案をワークで習得
身の回りの業務改善からDXを実践



DX実践講座 - 事業改革編 -
新規事業立案とプロダクト管理の実践テクニック

※オンライン集合講座の様子



<問い合わせ先>

群馬県 産業経済部 労働政策課 人材活躍支援室 リスキリング推進係

<メール> rouseika@pref.gunma.lg.jp

<電 話> 027-226-3403

群馬県ホームページ「リスキリングのすすめ」において、
リスキリングに関するお役立ち情報を掲載しています。



<https://www.pref.gunma.jp/site/reskilling/>

作成者:群馬県労働政策課人材活躍支援室
作成日:2025年3月31日